

事務事業	107	道路の無電柱化整備					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	03	快適な生活環境づくり					
施策	02	人にやさしい道路、交通施設の整備					
事業内容							
目的	主要な区道において、電線管理者の協力のもと電線類の地中化を推進し、歩行空間の拡大と都市景観の向上を図ります。						
対象・手段	対象：地区内主要道路、都市計画道路 啓開道路等 手段：電線共同溝方式（電線共同溝の整備に関する特別措置法に基づき、電線類を収容するため、道路管理者が道路の地下に施設を整備します）						
成果（事業が意図する成果）							
道路の既存ストックの中で電線類を地中化することにより、歩行空間の拡大に伴うバリアフリー化をはじめ震災対策・円滑な消防活動の実施などの防災性の向上が図れます。さらに、都市景観の向上と良好な住環境が形成されます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
地中化整備路線延長		電線類を地中化した区道延長 / 整備予定延長			(平成21) 年度に (940 m) の水準達成		
					() 年度に () の水準達成		
					() 年度に () の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
事業 成果 指標	目標値 1	m	0.00	0.00	940.00	940.00	区道34-220 大日本印刷通り H17からH18まで 整備延長460m 次期整備路線 補助72号線 H19からH21まで 整備延長480m (H19設計、H20・H21工 事) 平成21年度までの整備延 長 460+480=940m
	実績 1	m	0.00	0.00	200.00	460.00	
	= /	%	0.00	0.00	21.28	48.94	
	目標値 2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	区道34-220（大日本印刷通り）の整備(自費工事) 200m						
平成18年度	区道34-220（大日本印刷通り）の整備(自費工事) 460m（新道部140mを含む）						

部名称		環境土木部			課名称		道とみどりの課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考	
トータルコスト	事業費	千円	0	0	0	0	区道34-220の地中化は大日本印刷㈱の自費工事による整備	
	人件費	千円	0	0	1,668	1,656		
	事務費	千円	0	0	55	47		
	減価償却費等	千円	0	0	0	0		
	総計 = + + +	千円	0	0	1,723	1,703		
	受益者負担	千円	0	0	0	0		
	純計 = -	千円	0	0	1,723	1,703		
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00		
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	0	1,723	1,703		
	特定財源		0	0	0	0		
	一般財源投入率 /	%	0.00	0.00	100.00	100.00		
職員	常勤職員	人	0.00	0.00	0.20	0.20		
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00		
事業に関する検討課題								
<p>無電柱化にあたっては、地上機器の設置スペースの確保や埋設方式の選択など技術的な検討を要します。さらに、整備にあたっては、多額の事業費を要することから、既存ストックの活用等、経費削減に努めることが必要です。こうした状況を踏まえ、財政状況を鑑みながら、効果的な路線選定と着実な整備を図ることが求められています。</p>								
評価基準に基づく評価と理由	達成度	3	道路拡幅工事と並行する形で、順調に整備が進みました。					
	効率性	3	道路拡幅工事に併せて施工することで、再工事による地元への不便の軽減や、工期の短縮を図ることができました。					
	実施の成果	3	歩行空間の拡大による、安全で安心して通行できる道路の整備と無電柱化による都市景観の向上が図られました。また、グリーンシンボルロードの整備により、みどりあふれる快適な歩行空間が創出されました。					
	行政の関与	3	区道における電線共同溝整備は道路管理者である区が整備することと定められていますが、再開発や自費工事等の機会を積極的に捉え推進します。					
	妥当性	3	自費工事による道路拡幅の機会を捉えて、これに併せた地中化整備を行ったことは、極めて妥当な方法です。					
	施策寄与度	3	安全で快適な歩行空間の確保及び良好な都市景観の創出には、道路の無電柱化は重要な要素です。					
総合評価	区は、これまでも早大通りのほか再開発や自費工事の機会を捉え、積極的に道路の無電柱化を推進してきました。無電柱化により、安全な道路と快適な歩行空間が実現しました。今回の区道34-220は、自費工事による道路の拡幅と併せて無電柱化を行うことにより、工期の短縮と効率的な整備を行うことができました。						B	
							過年度評価	
改革方針	無電柱化事業の推進にあたっては、既存ストックの活用や構造のコンパクト化など技術的な検討を十分に行い、効果的な路線選定とコスト削減に努めます。また、事業実施に際しては、沿道関係者の理解と協力を得るとともに効率的なスケジュール管理を行います。						17年度 A 16年度 15年度 14年度	
							方向性	
						1		
						現状のまま継続		